図画工作科　指導改善のポイント⑥
～「造形遊び」の指導～

学習指導要領の趣旨を踏まえ、図画工作科の指導改善を図っていくにはどのようなことが大切か、そのポイントを確認していきます。

子どもたちは「造形遊び」にいつも楽しそうに取り組んでいますが、一人一人の力を高める授業になっているか不安です。
「造形遊び」では、どのようなことに気をつけて指導したらよいですか？

学習指導要領に示された事柄を踏まえて指導していますか？
「造形遊び」の授業では、活動を通して「発想や構想の能力」及び「創造的な技能」に関する３つの事項を指導していかなければなりません。

例として、第３学年及び第４年学年のＡ表現（１）のア、イ、ウを基に指導のポイントを確認しましょう。

Ａ表現（１）材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して，次の事項を指導する。

ア　身近な材料や場所などを基に発想してつくること

- この事項は、表現の始まりにおける「発想や構想の能力」に対応しています。
- 身近な材料としては、切ったり、分解したり、組み合わせたりできるような材料（木切れ、空き容器、何かの部品など）や前学年までの材料（土や粘土、新聞紙、段ボールなど）が考えられます。
- 場所としては、机の下の空間や植え込みの陰、傾斜地などが考えられます。
- 指導に当たっては、材料から場所を考えたり、活動する場所にある材料を活用したりするなど、児童が材料と場所を相互にかかわらせ、いろいろ試みる中で発想が広がるよう指導を工夫することが大切です。

例えば、「ひもひもワールド（教科書：図画工作３・４上、日本文教出版）」では、ひもを様々に組み合わせておもしろい形をつくったり、たくさんの色の線で教室の雰囲気を変えていこうとしたりする児童の姿が紹介されています。
このように、材料を用いて身近な場所の様子を変化させる方法を考えたり、思い付いたりする姿を引き出していくことが、「発想や構想の能力」を育てることにつながります。

イ　新しい形をつくるとともに，その形から発想したりみんなで話し合って考えたりしながらつくること。

・　この事項は、表現の過程における「発想や構想の能力」に対応しています。
・　材料や場所などに働きかけて新しい形をつくるとともに、さらに発想して形を変化させたり、動かしたりするなど、発想が連続するような学習過程が求められます。
・　指導に当たっては、一人一人の気付きやイメージなどを基に、児童が自然に発想を交換したり、話し合ったりしながら活動できるよう配慮します。（あらかじめグループでつくるものを決めて分担するのではありません。）

例えば、「つなぐんぐん（教科書：図画工作３・４下、日本文教出版）」では、木の枝などの材料をつなぎながら新しい形を発想したり、友達とその発想を膨らませたりしながら活動に取り組んでいる様子が紹介されています。
新しい形をつくり出す取組を積極的に称賛したり、友達との関わりが生まれやすい材料や場所を設定したりしながら、このような「発想や構想の能力」を発揮する姿を引き出していくことが大切です。

ウ　前学年までの材料や用具についての経験を生かし，組み合わせたり，切ってつないだり，形を変えたりするなどしてつくること。

・　この事項は、「創造的な技能」に対応しています。
・　組み合わせてみたらどうなるか、切ってみたらどうなるかなど、試すような気持ちで活動に取り組ませます。

（例１）木材をのこぎりで切り、それを接着剤などでつないで形をどんどん変える。
（例２）釘を何本も木切れに打ち込むことに熱中しながら、次第に自分なりの表し方を見付ける。

・　指導に当たっては、児童が用具を使ったり表し方を工夫したりする中で創造的な技能が育つよう指導を工夫することが大切です。その際、多様な材料や用具を用意したり、逆に絞ったりするなど、児童の経験・実態を考慮することが重要です。

例えば、「クミクミックス（教科書：図画工作３・４上、日本文教出版）」では、段ボールカッターで段ボールに切りこみを入れ、組み合わせ方を工夫する児童の姿が紹介されています。
このように、用具を使って材料の組合せ方やつなぎ方などを工夫する取組に向かわせていくことが、「創造的な技能」を育てることにつながります。